

創立 1986 年

2019～2020年度クラブ目標

『共に手をつなごう
ロータリーのもとで』

会長 中目公英
幹事 兼子 聡



ロータリーは
世界をつなぐ

2019-20年度国際ロータリーテーマ



第1620回例会

令和2年2月20日 (12:30～13:30)

○ソング

- 四つのテスト

○スマイルBOX

- 中目公英会長 (IM報告会で発表をさせていただきました、鶴丸彰紀さん、阿部克弘さん、ありがとうございます。 「ロータリーは世界をつなぐ」のテーマの基で、これからも共に、ロータリーを楽しみましょう。)
- 永野文雄会員 (十文字会員の入会をお祝いします。楽しくやりましょう。鶴丸会員、阿部会員、インターシティミーティングの発表ありがとうございます。)
- 成井正之会員 (十文字光伸さんロータリー入会おめでとうございませう。共に楽しんでいきましょう。)
- 安部和夫会員 (十文字さん、入会おめでとうございませう。気楽にやりましょう。)
- 金田昇会員 (欠席が続きませう。)

▶第1620回例会出席状況 (R2年2月20日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	44名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	58名
Ⓒ ①の出席者数	22名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	0名
Ⓕ ②の出席者数	8名
Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数)	30名
Ⓗ = ⑥ - (⑦ - ⑧)	52
Ⓘ = ⑥ / ⑨ × 100 (例会出席率)	57.69%

本日のプログラム

■会長の時間

中目公英会長

皆さん、こんにちは。今日も何かとお忙しい中、例会にご出席をいただきまして本当にありがとうございます。先週は歴史文化愛好会の担当例会で、堀田さんに小峰城の石垣について卓話を頂戴いたしました。そうしましたところ、おそらく白河市の行政執行部にまで影響を及ぼし、新年度から清水門の復元を白河市がすると。まさにこれはタイムリーな卓話であったと思っております。皆さん方の各会社、年度末で黒字でいっぱいでしょうから国に税金を納めるよりは、ひとつ小峰城の城郭復元基金に寄付していただければ、すぐさま我がクラブの例えば兼子さんのところが請け負って、堀田さんのところが施工して清水門が出来るんじゃないかと思っておりますので、どうぞご協力いただければと思っております。さて、今日の会長の時間では先週の例会後、理事会が行われましたのでこのことにつきまして皆様方のご報告をさせていただきます。もう既にファックス等々で皆さん方にご案内をしているものにつきまして簡単にさせていただきますが、案内が行っていないものにつきまして少しくご説明をさせていただきます。まず初めに、新入会員の入会につきまして理事会でいろいろ審議をいたしました。かねてより、十文字光伸さんが仮入会だったのですが、理事会全会一致で十文字さんの入会を認めることになりましたので、本日の例会から正式な会員としてこの後入会式を執り行いたいと思っております。それから、ホームミーティングにつきましては既にご案内がいております。我がクラブの理想像につきまして皆さん方の考えてるところ、今年度の中長期戦略委員会と来年度のビジョン推進委員会で我がクラブの今後のあり方について皆さん方の考え方を聞きたいので、ひとつ活発なご意見をホームミーティングの席上で発表していただければと思っております。それから、RYLA研修がもうすぐ行われます。青少年奉仕で担当いたしました、RYLAとは青少年の指導者研修なのですが、ロータリーに入るのが40歳前後だとすると、それよりもっと若い30歳前後で地域のリーダーになっているような方々、その方々にもう少し研鑽を深めていただいて指導者としての確固とした見識を持っていただきたいという研修であります。いろいろ検討いたしまして、吉成清志会員のお子さんである吉成茂さんと吉成翔太さんの2名をRYLA研修へ派遣することに決定をいたしました。是非、吉成さ

んのご息の方々にも近い将来我がクラブにも入会してもらえればと思っております。それから3月21日、復興フォーラムにつきましては皆様方に参加を申し上げましたが、少数精鋭の方々が参加していただけるということで、それで行ってくるような形になりました。コザの訪問は、5月20日から22日までであります。ひとつ奮ってご参加をいただければと思っております。それから、社会奉仕委員会から大きなことが出され、もう既に事業半分実施しているものなのですが、ご報告をさせてもらえればと思っております。社会奉仕委員会で今年度いろいろな事業をする中の一つとして教育支援事業をしたいとかねてより検討を重ねてきました。一小、二小、三小をはじめ、いろいろ検討しまして、白河第一小学校の器楽クラブが楽器が壊れたままであると社会奉仕委員会で調査してまいりまして、第一小学校の器楽クラブにコントラバスを1挺寄贈させてもらいたいと校長先生に話をしましたところ、たまたま今月の15日が器楽クラブの発表会があるので、本当であれば新しい現物が届いて寄贈してセレモニーをするつもりだったのですが、校長先生のご意向で15日のコンサートの時に目録だけでも頂戴をいたして皆さん方にPRしたいと、第一小学校の器楽クラブの文部科学大臣賞受賞記念コンサートの折に、目録を寄贈するセレモニーをさせていただきます。皆さん方のお手元には、民報、民友の記事が載っております。事業は30万でコントラバスを1台寄贈するのですけれども、社会奉仕委員会の今年度の事業総額が30万で、これに全額を使ってしまうとなかなか大変だということで、20万の予算を割り当ててあと10万は皆さん方からご協力をいただきたいという意向で、理事会でそれでいいだろうと決定をさせていただきました。この協賛依頼の文章も皆さん方に行ってるかと思いますが、一口二千元ですからスマイルをするような感覚でできれば多くの方々にご協力を頂戴をして、コントラバスの購入費用に充てさせてもらいたいと思っております。おそらくコントラバスができるのは年度末の3月末くらいだろうと思っておりますから、それまでの間折々社会奉仕委員会が皆さん方にご協力のお願いをさせていただきます。その時には快く協賛してもらえれば大変ありがたいと思っておりますので、よろしく願いをいたします。もう一つ、5月14日、石田、関谷、道又年度で行いましたロータリーの森事業が今年度で20周年を迎えるということで、ロータリーの森事業がどういうふうな事業であったかを振り返ることを、甲子温泉の「大黒屋」を会場にして行います。これも社会奉仕委員会担当になっております。こちらは

近々、詳しいご案内を皆さん方にいたしますから、ひとつ積極的にご参加をいただければと思っております。それからもう一つ、シスター委員会で昨年度、深谷ノースさんから白河に交流を深めるきっかけとなった林さんを称える椅子を二脚寄贈いただきました。その返礼で今年、渋沢栄一さんがいろいろな形で注目を集めるようになりまして、深谷の駅前に同じくベンチを二脚白河西から深谷ノースさんに寄贈する話が進んでおりまして、一番初めは昨年の11月の末にそのベンチが出来て寄贈式をする予定だったのですが、生の木でベンチを作っているもので乾燥がなかなか思うようにはいかず、今般ようやくそのベンチが出来上がったと深谷ノースさんから連絡をいただきました。近々皆さん方にご案内を差し上げますから、皆でござって深谷ノースに行って、そのベンチの寄贈式のセレモニーに立ち会っていただければと思っております。最後に、話がもれてしまいましたが入会員の十文字さんは親睦委員会の配属として今年度活躍をしていただきたいと思っております。それから、小林仁一さんが残念ながら退会になった後、小林義勝さんが副委員長のままだったので、小林義勝さんを委員長にして、今後職業奉仕の活動がある場合にはご活躍をいただきたいと思っております。以上、先週末の理事会報告を皆さん方にお話させていただきます。今日の例会、どうぞよろしく願いいたします。

■新入会員入会式 十文字光伸会員



■本日のプログラム IM報告 ○鶴丸彰紀会員



皆さん、こんにちは。では、先日行われました国際ロータリー第2530地区の新会員セミナーの件のフィードバックを行わせていただきます。令和2年2月9日の日曜日ですね。母畑温泉

の「八幡屋」さんのほうに集まらせていただきました。午前中に新人会員セミナー、午後にIMのミーティングという形で行わせていただきました。わたくしのほうは午前中の新人会員セミナーについてのフィードバックを行わせていただきます。当日、参加いたしましたのが、中目会長、大住会員、大竹会員、あとはわたくし鶴丸で、上杉会員は午後にIMのほうにいらっしやいました。第一部、第二部という形で新人会員のほうはございまして、第一部のほうは「ロータリーとは」、第二部のほうは「クラブ定款と細則について」という内容について勉強してまいりました。新人セミナー入会から3年目までということでやらせていただいておりますので、こういった去年もいただいたんですけども「今日からロータリアン」という冊子をいただきましてこれに沿った勉強で、非常に去年も受けさせていただいたんですけども私は勉強になりました。ありがとうございます。内容といたしましては、午前中に行いました第一部に行われました「ロータリーとは」ということで、国際ロータリー第2530地区県南分区のバスター補佐の藤井卓様からお話をいただきました。内容といたしまして、今ロータリーの力を入れている部分ということで、青年に対する教育の部分と社会奉仕に関する部分を一番最初に強く発表されておりました。その中で、ロータリーの基本理念ということで3つ発表があったので、その部分を発表したいと思うんですが、「社会奉仕に関する1923の声明とは」というレジュメを配られまして発表を伺いました。このロータリーの基本理念ということで我々にお伝えいただいたのが、ロータリーは基本的には一つの人生哲学であります。1923年の社会奉仕に関する声明というものがあったんですけど、ロータリーに対する中で自己研鑽の奉仕ですとか、超我の奉仕、天地の理法という詳細は割愛させていただきますが、そういった形の説明をいただきまして、ではどうすればいいと思いますかと。まずロータリアンとして自分以外の身近なところから家族を幸せにする。社員を幸せにする。お客様を幸せにする。取引関係者も幸せにする。そして地域社会も幸せにする。そして、社会全般に適用するこれによって子々孫々に至るまで永続発展させる人生哲学を示していくところに職業奉仕の魅力があるんですという内容です。そのような場所に集まっているのがロータリアンなのですよという結論です。続きまして、ロータリーの基本理念のその2ということで、ロータリーの綱領についてですとか、ロータリーの

目的についてという部分の話がありました。ロータリーの目的については知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること。職業上の高い倫理基準を持ち、ちょっと割愛しますが社会生活において日々奉仕の理念を実践すること。また、奉仕の理念で結ばれた職業人が世界ネットワークを通じてお互いの理解と親善と平和を推進すること。こういったものが理念でありますという。この後に「4つのテスト」、いつも唱和してるところですけれども、これの細かい説明、細かいというか内容の理解ですとか受け取りかたですね。それに対する説明等をいただきました。非常にここの部分は基本の部分ですのなるほどなところ、2回目なのですけれども知ることができて良かったと思います。続きまして、第二部のほうでこちらのほうはクラブの定款と細則についてということで、講師は国際ロータリー第2530地区の規則・手続委員会委員長の高橋金一様からお話をいただきました。これは今年、中目会長様のほうから今のこのクラブの定款、細則の見直しについて非常に聞いてたので、何か復習をやっているような形で思いました。皆さん、この定款、細則という形のを細かく読まれたことが今年に関してすごくあったのかもしれない。お配りいただいて、例会の時に説明されたこともありましたので。このもとロータリーというのは、宣言上こちらのほうではロータリーの各会員、各地区のロータリークラブが一番上にあって、その下に地区ガバナーがあって、一番下にロータリーR Iが存在していますよという形で理念としてありますけれども、定款の上からいいますと細かい細則はR Iのほうで決めて、それが落ちてくるという形になっていますので、その部分はちょっとわかりづらいところかもしれませんけれどもという話が途中であったんですが、そこは多分問題のないところかなと。このクラブの定款・細則については、今全世界で3万5千のクラブが活動をしてらっしゃると。これが世界で約530地区、資料の525地区となっていますけれども530地区に分かれ、さらにその530地区は世界を34のゾーンに分けて活動をしています。1ゾーンあたりに約3万5千人前後の会員が今現状いるということで話を聞いております。日本は3ゾーンに分かれているということでした。この定款については、2010年までの定款というのは非常に分厚い定款が配置されたということだったんですけども、今はホームページのマイロータリーの中で見れるようになっていました。これについては、なかなか周知されていないところでもありますということ

でしたので、是非ホームページのマイロータリー、入れない方は事務局のほうに言っていただきましたら入り方わかると思います。以前もここで一度か二度だけ入り方ですとかをご紹介いただいたこともあったと思いますけれども、是非このマイロータリーは活用してくださいということでした。最後に十文字さんいらっしゃるの、我々新入会員3年目ということで、新人としてロータリーを理解するために我々も含めて新入会員が是非やらなくちゃいけないことということで発表ありましたのが3つあります。例会に必ず出席しましょう、会合には出ましょう。あと、ガバナーからの月信、その他ですね、そういったのに必ず目を通しましょうということ。あと、「ロータリーの友」というのが配られます。この「ロータリーの友」を是非熟読してください。これは去年も仰られたんですけども、ロータリーとして最初に何をやっていいのかわからないっていった時、ロータリーって大きすぎて私も未だに全部理解できてるわけでは当然ないんですけどもこの3つですね、例会に出席ですとか、その資料、冊子、これに必ず目を通しましょうというところを繰り返すことで理解が深まるということは去年に引き続き今年も言われましたので、是非私も徹底したいと思っております。取りあえず午前中の部分ですね。新人会員のほうは発表は以上になります。では、午後のIMのほうは阿部会員のほうにお願いいたします。よろしく申し上げます。以上です。

○阿部克弘会員



皆さん、こんにちは。かなり時間を残していただいて、修練の場を与えていただいてありがとうございます。私も新人の際は3年間続けて出席をさせていただきまして、私も平成22年の10月入会ですので、今年で10年になろうとしております。取りあえずIMとか地区大会は多分休まずに出させていただきますので、皆さんも特に新人の方はそういう大会とかIMとかそういう所には出席をしていただいて、ロータリーとは何ぞやということろを学んでいただければなというふうに思っております。私は第2章ということで、インターシティミーティングの第一部がオープニング、第二部がグループディスカッション、第三部が発表というところで話をさせていただきます。トータルになります。新入会員の方の出席が先程鶴丸会員から発表ありましたので、その他の会員の方の発表をさせていただきますが、関谷会員、永野会員、渡部

会員、前原会員、成井会員、山口会員、私、吉野会員、齋藤会員、鈴木孝幸会員、堀田会員、そして兼子幹事と総勢多分17名だったと思うんですが、もし漏れてる方いらっしゃいましたら、すいません、ごめんなさい。この17名で取りあえずインターシティミーティング参加して参りました。まず初めに、西牧県南分区幹事の司会で中野県南分区ガバナー補佐の開会点鐘でインターシティミーティングが始まりました。開会の挨拶は会場となった母畑温泉の「八幡屋」の会長であり、ホスト石川ロータリークラブの会長の渡邊会長でしたが、緊張のせいかとちったりしたことがありまして、それが伝染して中野ガバナー補佐もちょっと芳賀裕ガバナーをガバナー補佐と紹介してしまったりとか、ちょっと伝染病の効果があつたみたいで笑いを誘っていました。来賓としては石川町長の塩田金次郎さん。あとは学校法人石川義塾の関係者の方が挨拶をし、そのあと芳賀裕ガバナーの挨拶がありました。芳賀ガバナーは福島中央ロータリークラブの所属で、昨年やはり同じガバナーだった平井義郎さんも同じ福島中央ロータリークラブの所属ということで、2年連続で福島から出されたということですね。いみじくも芳賀、平井、両メンバーとは私は福島青年会議所で一緒でした。なんとなく親近感がありました。芳賀ガバナーの経歴に関しては、今申し上げたように福島中央ロータリークラブで、昭和27年2月11日お生まれです。お仕事は安部先生と同じく司法書士をされておられて、ロータリーに入られたのは1990年5月16日、福島中央ロータリーのチャーターメンバーということになっております。芳賀ガバナーのこれ余談になりますけれども、芳賀ガバナーが福島青年会議所に入会されたのは昭和54年1月で、平井さんは昭和60年7月でした。ちなみに、私は昭和57年7月入会だったのですが、途中で白河にまいりましたので卒業できずにそのまま終わってしまいました。お二人は卒業されて両方ともロータリークラブに入会されてガバナーを経験されたという、ちょっとこの差はかなり大きいなというふうに思っております。私も頑張つてガバナーはできませんが一生懸命、会長というお話がありましたけれども、まあその辺もちょっと考えさせていただいて何とかロータリークラブで貢献できるように頑張りたいというふうに思っております。第二部は、グループディスカッションがありました。これは酒井千恵子ホストクラブの会長エレクトの進行でバズセッション。ロータリークラブではそういう方式をとっているようなんですけども、バズセッショ

ンというのは、そちらにも書いてありますが討論の一形式で多人数が参加する会合において参加者を少人数グループに分け、グループごとになるべく個人の意見を多く出し合う方法とあります。後でグループリーダーがそのグループの討論内容を要約発表し、最後に全体討論または講評が行われるのが普通であるというふうになっておられて、実は酒井さんとは平井バスターガバナーの時代に地区ディスカッションリーダーということで私も選ばれて、酒井さんも選ばれて研修会に結構一緒に出ておりました。年5~6回あつたと記憶しております。その経験を生かされておそらく酒井さんはロータリアンの皆さんにこのグループディスカッションを体験していただきたいというふうな考えでやられたんじゃないかなと思います。芳賀裕ガバナーの今も多分ちょっと私よくわかんないんですが、多分今もやってるんじゃないかなと思うんですね。次年度の石黒さんの時もおそらくやるようにはなるんじゃないかなと思っております。石黒さんも平井ガバナーの時には出ておりました。今回は、そのグループディスカッションを会員増強、あとは各ロータリークラブの社会奉仕事業についてのバズセッションがありました。ちょっと小さいんですけども、西ロータリークラブからも結構参加者がおりましたので、1テーブルから8テーブルまで大体2名づつ出た形にはなってるのかなと、半分くらいですかね。あとは1名のところはあります。このバズセッションのやり方なんですけれども、先程説明しましたけどもなかなかちょっと難しいところがありまして、4人から6人の小グループに分かれて同時に話し合うと。今回はちょっと人数が若干多かったような気がいたします。そして、グループ内で意見の善し悪しは問わずに思いついたことをどんどんあげて言ってもらう。ある問題について新しいアイデアや多様な考えを出し合いたい時に有効な方法になっております。ポイントとしては、小グループの幾つかに分かれて先程説明したように分かれて、自由討議の形式が基本になります。同じ議題について話し合うということ。思ったままに自由に話し合うこと。沢山の意見を出し合うことがポイントになっております。そして、ルールがありまして他の人の意見の批判をしないということ。自由に活発に良い悪いは別として意見を出していただく。とにかく自由に語っていただく。必ず発言者が発言ができないということがないように、必ず一人は一つの意見を言うということ。一人が数多く言うということ。あとは、他の人の意見に繋げて言っ

てもよいというのが特徴です。このほかの意見の批判をしないということはとても大切なことでありまして、駄目だ、そうは考えないというような否定や反対はしないで、そうだなあ、そういう考えもあるなというような姿勢でほかの意見を聞く、ほかの意見を出させる。こんなことを言っちゃあ批判されるだろうとか、そういうマイナスにならないように相手にプレッシャーをかけないようにすることが基本になっているようです。バズセッションの仕方は先程も重複になりますけども全員の顔が見えるように座る。リーダーは議題を確認する。具体的な議題が良いかと思えます。今回は会員増強と各ロータリークラブの社会奉仕についての明確な議題がありました。それから、自分なりの意見を言う。時間が来たら全体に発表すると。発表は短く要点を整理して話す。大事なのは聞く人がメモをするという、ここが大変重要なことだと思います。これがバズセッションの基本なんですね。私は齋藤孝弘会員と同じテーブル8に座りまして、その会員増強並びに社会奉仕の事業についてディスカッションをしてまいりました。テーブル5の発表者は吉野会員でしたので、西ロータリーの発表者は吉野会員だけでしたので、吉野会員が代表として発表したというふうになります。ディスカッションが終わったあとは恒例の懇親会になりまして、懇親会ではホストクラブの渡邊会長が開会の挨拶で始まりまして、懇親会はかなり慣れてるようで流暢にというか言葉滑らかに開会の挨拶は出来ました。それから、いろいろアトラクションとかが始まりまして、こちらは石川吹奏楽団の演奏もありまして大変楽しい有意義な懇親会となりました。最後はいつものように手に手の歌の後に中締めとなりまして、インターシティミーティングが終了という形になりました。まだちょっと時間がありますので、全然関係ない話なんですけども今回司会をされた西牧さんですか、県南分区の幹事をされた方。多分、今副会長なのでおそらく2~3年後には会長をされるんじゃないかなと思えますが、西牧さんは「石川中央医院」という所の先生をやっておりまして、そのお母さまが会津若松市の出身で、野口英世青春通りという所の「会津一番館」という喫茶店があって、その脇に「福西本店」という所がございまして、お母様はそこの出身なんですね。前は民芸品とかそういう飲食店なんかもその蔵を利用してやっておりまして、今は国のお金で改装して記念館になっておりまして、そのいとこさんになる方が館長をしております、会津商工会議所の会頭さんも是

非そういう由緒ある記念館ですので、見に来てくださいという話を前受けたことがありますので、是非ちょっとの繋がりでお話をさせていただきましたけど、是非会津のほうに行ったら「福西本店」の所に行って見学をしていただければなと思っております。すいません。取り留めのない話になりましたが、以上で報告を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○中目公英会長

今日はIMの報告、誠にありがとうございました。私も会長になりまして十何年ぶりに新会員セミナーに出てまいりました。ロータリー歴が長い皆さん方でも、ロータリーの社会奉仕決議23の34というのは大変有名なのですが、その決議23の34が何かを覚えている人は、多分山口さんくらいしかいないんじゃないかと思っております。鶴丸さんから発表がありました。私もこれだけ最後に読まさせてもらってから閉会点鐘を鳴らしたいと思えます。ロータリーは基本的には一つの人生哲学である。それは利己的な要求、自分が良くなり、自分の会社だけ儲かりたいという利己的な要求と、義務及びそれに伴う他人のために奉仕、それよりは何々の義務をしなくちゃいけない、あるいは他人のために何かしたい、つまり自分が良くなり、他人のために何かしたいと、この二つの欲求は矛盾する、方向性が違う、矛盾しあうのに、その義務及びそれに伴う他人のために奉仕したいという感情との間に常に存在するその矛盾を和らげようとするものである。その和らげるのがロータリーの人生哲学であると。その人生哲学を端的に表す言葉は、「Service Above Self 超我の奉仕」であり、「He profits most who serves best. 最も良く奉仕する者、最も多く報われる。」その「超我の奉仕」と、「最も良く奉仕する者、最も多く報われる」というこの二つの短い端的な言葉で表せる哲学がロータリーの根本になっている。この二つの言葉でもって、自分が良くなり、他人のために奉仕したいという矛盾を克服し、一段高いレベルに上げて調和させましようというのがロータリーの精神だと、新会員セミナーで教わるわけです。ひとつロータリー歴の長い皆さん方も復習の意味で決議23の34をもう一回調べてもらい、私の言葉足らずのところを補って理解していただければ大変ありがたいと思えます。以上、簡単に補足説明をさせていただきます。今日の例会を終了します。ありがとうございました。